Club Te Pense

2019年2月講義

そもそもライバルは必要なのでしょうか?

このように前提条件や問い自体などを 「そもそも論」で疑うのが哲学的視点の基本

真剣に疑うからこそ その先に深い信頼が得られる

前半の講義の内容も踏まえて まずあなたにとっての「ライバル」の 定義を言語化してみましょう

ライバルの設定以前に ライバルの定義を明確にしておかないと 設定したライバルが機能しません

まずは世間一般で使われている 「ライバル」 という言葉を確認してみましょう

ライバルの語源は ラテン語で「小川」を意味する「rivus」 同じ川(水源)を争う人々から 1つのものを求めて常に対立している宿敵 という意味で使われるようになった

ちなみに 元々は日本語で言うところの 「好敵手」 のような意味はない

ただ現在では 単なる「宿敵」という意味合いより 「切磋琢磨して成長できる好敵手」 の意味の方が一般的かもしれない

つまりライバルを 「自分を成長させてくれる存在」 と定義するならば 何も人間である必要はない

例えば 現代の人類が未だ乗り越えられない構造 「資本主義」 をライバルとした場合どうなる?

ライバル分析をして 資本主義の良い点と悪い点は何でしょ?

資本主義とは

自由市場での交換による金銭的利益の 個人的蓄積への欲望によって成り立つ構造

メリットとしては 生産能手段を所有し 交換価値を最大化することで あらゆる力を持つことができる

デメリットとしては 生産手段を所有しない者は 労働者として資本家に使われ 貧富の差が際限無く広がる

では 貧富の差があることは悪いことか?

格差は悪と考える人達がいて 資本主義のアンチテーゼとして 社会主義・共産主義が登場したが 結果はご存知の通り

考え方によっては 格差そのものが悪ではなく 貧困が悪だとも考えられる

そんな 資本主義への挑戦として 世界から貧困をなくすことを掲げ グラミン銀行が生まれました

もし

ムハマド・ユヌスのライバルが 世界一の大富豪ビル・ゲイツだったら グラミン銀行は誕生したでしょうか?

どの枠組みで考えか? 誰と比べていますか?

人物だけではなく 世界の構造であったり 社会問題をライバル(宿敵)とすることで イノベーションは生まれることも多い

ライバルの定義や設定は自由であり ライバルというベンチマーク(指標)の設定が 個人や社会を豊かにする

よくライバル論で

「自分がライバル」

というのを聞くと思います

でも よくよく考えると 自分がライバルってどういうこと? 克己心とライバルを同一化してるだけ?

もし ライバルの存在が自分を成長に導く存在なら 自分がライバルで本当に成長できる?

例えば イチローや中田英寿が 「自分のライバルは自分」 という時 そのライバルは非常にレベルが高く 現在の自分を成長させるに足る存在

もちろん

昨日の自分より少しでも成長するという意味で 自分をライバルにするのも一理ありますが それで目標や理想を実現できますか?

例えば 月収100万円が目標なのに 去年は月収50万円だったから 去年の自分に勝とう!で 今年月収100万円が達成できるのか?

それならば 打倒!月収100万円!

や

月収100万円を稼いでいる人 をライバルにした方が良いのでは?

自己成長や目標達成の役に立たないような ライバルって人生に必要ですか?

天才や偉人やトップアスリートの 名言を鵜呑みにしてしまうと 成長の害になることも多々あります

例えば

「夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ」

など聞くと良いことを知った気になる

でも それで夢を実現できるのか?

夢って本当に逃げないの? 夢から逃げちゃいけないの?

名言コレクターになって実が伴わないのなら まずは月収100万円稼ぐ!の方が有益では?

名言そのものに善悪はなく それを鵜呑みにしてるのか 自分事として消化できているか

あなたには 人生を向上させるために 日々意識するライバルはいますか? ワーク

ライバル論の実践

ワーク1

ここまでの話を踏まえて あなたにとっての『ライバル』を 再定義してください

ワーク2

今、再定義したライバルの概念に基づき ライバルを設定して そのライバルに勝つための戦略・戦術を 言語化してください

宿題

来月のZOOM講義までに あなたが持っている情報やノウハウを言語化して 無料で渡せるプレゼントを作りましょう